



店に人が来れば 三芳町が元気になる

真愛ままなさんが寄り添います。—— 一目ぼれでした ——
三芳町でオープンした理由を尋ねると、二人は口を揃えてそう言います。「駅から近く、外観・店内も木が基調で温かみを感じることができると素敵な場所だったので、ここでお店を開こうと決心しました」と一史さん。

店内に入るとライブハウスとは信じがたいほど、小さいという印象。しかし「小さいからこそできること」を考えます。「手を伸ばせばアーティストに届いてしまうほどの距離感。出演者はごまかしがききません」。普通のライブハウスでは出演者が数十枚チケットを購入する、チケットノルマがあるのが当たり前ですが、ここではありません。その理由とは。

「安定したチケット収入がないので、私たちも他人事ではなくアーティストと一緒に、お客さんをお呼びするための努力をしなければなりません。お互いが本気になることで、出演者もお店も成長することができる」と真剣



①「すぐそばにある身近な場所で『おとなり』。音が鳴るとい意味もあり、名前はとても気に入っています」(一史さん)。
②「おすすめはタコライス丼。お立ち寄りの時はぜひご賞味ください」(真愛さん)。



①「ずっと二人でお店を続けていきたいから」と昨年結婚をした深井さんご夫妻。「普通が嫌い」という二人のこだわりは、異なるデザインのソファやクッションなどのこだわりから読み取れます。②③温かい雰囲気に包まれたライブの様子。出演者が魂と息づかいをすぐ近くで感じることができるのは、このライブハウスならではの。小さな豆電球が照明となり、明るさの調整は店長が長年の経験で行います。



小さな町の、小さなライブハウス。

2015年12月にオープンしたアコースティック専門のライブハウス。
26歳と24歳の町外出身の若い夫婦が三芳町で、音楽を通じたまちづくりを続けています。



木が基調で落ち着いた雰囲気の店内で笑顔を見せる深井一史さん(26)と妻の真愛さん(24)。音楽が二人と地域を結び付けています。

アコースティックカフェおとなり
みよし台7-9 ☎ 070-5456-7256
スケジュールはWEBサイトから▶



三芳町の
面白いモノ

世界の「ESPギター」 実は三芳町で製造

日本で初めてのオーダーメイド・ギターメーカーとして創業40周年を迎えたESPギター。そのギターが実は、三芳町で作られています。革新的なデザインやアイデアで一般ユーザーをはじめ、国内外問わずトップアーティストからの信頼も厚く、特にエレキギターでは国内トップシェアを誇っています。妥協を一切しない情熱と努力が、高いクオリティを生み出し、そのものづくりの姿勢が世界中から愛される要因となっています。

ESP 東京営業本部
三芳町竹間沢東3-9
☎ 049-274-3810



なまなざしで話す一史さん。二人の結婚記念日は11月3日で奇しくもその日は、三芳町が誕生した日(町民の日)。「運命的なものを感じる」と驚きの表情をみせ、鳥肌が立った腕をさす真愛さんを、おとなりで優しく見守る一史さんの想

い。「地域の人との交流を深めて、音楽を通じて嬉しいを広げていきたい。おとなりをきっかけに、三芳町に訪れてくれる人を増やして町を元気にし、この場所で楽しんでもらえることを企画・発信して、町を盛り上げる力になりたいと思います」

み

ずほ台駅西口を降り、メインストリートから一本北



店舗の外観。「お家のような形がお店のロゴのコンセプトになっています」と真愛さん。

に入った道を歩くこと約7分。ウッドティストの外観、かわい三角の屋根をかたどった印象的な看板のお店が目飛び込んできます。「アコースティックカフェおとなり」。アコースティック専門のライブハウスとして平成27年12月にオープン。連日都内をはじめ、町内外からアーティストやお客さんが訪れ、賑わいをみせています。「バンドマンとして川越や都内を中心にライブ活動を行ってきました」と話す店長の深井一史さん。「バンドの解散をきっかけに、未開拓の地で、全く新しいライブハウスを開きたいと思っていました」と言う一史さんのおとなり。に奥さんの